

# σαββατον

## サバトン

知っておきたいキリスト教のことば (12)

安息日 あんそくび

昔、「炎のランナー」という映画がありました。1981年に英国で製作されたものです。ご覧になった方もおられるかもしれませんが、わたしが一番印象に残っているのは、オリンピック選手が、日曜日にある予選に出場するのを拒否したというできごとでした。

わたし自身ミッションスクールに通っている時にサッカー部に入っていたのですが、学校の方針で日曜日には対外試合をしてはならない、練習もしてはならないという規則がありました。実際、出ることのできなかつた大会もあったくらいです。

これらのことは、「安息日」という考えに基づいてのことです。安息日とは、ユダヤ教では金曜の日没から土曜の日没までの間を指します。その間は、一切の労働が禁じられていました。そしてその時間を礼拝など、神さまのためにささげるようにとされていました。

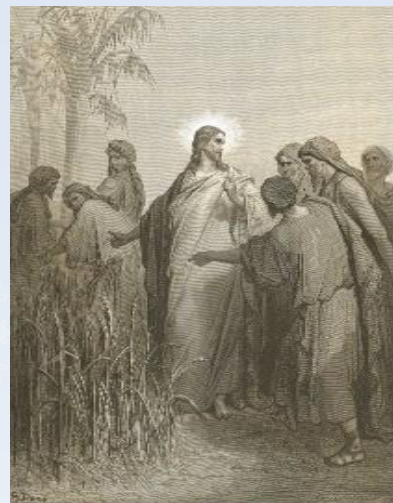
今でも厳格なユダヤ教徒は、この戒めを厳しく守ります。コンロの火をつけることもせず、歩くのも900mまで、車もエンジンに火をつけるので運転できないなど、様々な細則を決めています。

しかし、安息日はわたしたちの生活を縛り付けるものではありません。ヘブライ語で安息日をあらわすシャバートという語は「休息」を意味しますが、神さまが天地創造の7日目を祝福し、聖として休息をとったことが、安息日の起源です。この休息は神さまからの賜物であり、奴隷であれ、家畜であれ、みなが休むときでした。

わたしたちキリスト教徒にとって、安息日は主の復活の日を記念する日曜日となりました。わたしたちはその日をどのように過ごすでしょうか。神さまからいただいた大切な時です。神さまに心を向け、祈り、過ごしたいものです。

どうぞ、日曜日は教会へ。

次回は「イースター」です。お楽しみに。



「安息日に麦の穂を摘みとる弟子たち」  
ギュスターヴ・ドレ (1832-1888)

そして更に言われた。「安息日は、人のために定められた。人が安息日のためにあるのではない。

(マルコによる福音書2章27節)

